

学校名 札幌市立新川西中学校

学校関係者評価委員会

1 本年度の重点目標

学ぶ意欲と豊かな心、健やかな体を身につけた生徒の育成

奥野 晃弘 (学校評議員)
 西川 雅代 (学校評議員)
 田中 俊宣 (学校評議員)
 竹下 満 (学校評議員)
 川西 輝明 (学校評議員)
 吉岡 有子 (PTA会長)
 荒島 晋 (校長)
 横川 広志 (教頭)
 三角 洋 (教務主任)
 八木田晃暢 (生徒指導主事)

2 本年度の経営方針

「生きる力」の根本である、「学ぶ意欲」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けた知徳体の調和のとれた生徒を育む教育活動を推進する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する)

| 分野領域 | 評価項目 | 達成状況 | 取組の適切さ | 改善方策 | 自己評価の適切さ | 改善に向けた取組の適切さ |
|------|--------------------------|------|--------|--|----------|--------------|
| 教育課程 | ①説明責任が果たせる評価・評定の工夫と改善 | | | ①評価評定の工夫と改善は、常に更新されなければならない。春先の研修会で共通理解を図り、実施していくという姿勢を確認したい。 | | |
| | ②多様な指導方法を工夫した計画的な道徳授業の推進 | A | A | ②各学年の研究部を中心に、指導案を検討することができた。今年度の作成したものを参考に、次年度は更に工夫改善し、生徒にとってよりよい内容になるようにしていく。 | A | A |

<学校関係者評価委員による意見>

- ・集会での合唱など素晴らしい成果をあげている。生徒の学ぶ姿勢と教師の指導力も立派である
- ・学校は全てにおいて説明責任が伴うので、工夫改善と共通理解に取り組んでいく

| | | | | | | |
|------|---|---|---|--|---|---|
| 学習指導 | ③家庭学習習慣の定着など、自らすすんで学習に取り組む生徒を育てる取組の強化 | | | ③④⑤ 生徒のデータを分析すると、宿題や提出物をきちんとやっているという割合が高めであるのに対し、家庭学習を意欲的に進めているという割合が低めである。保護者に至っては、テストに向けて家庭学習を進めているという割合が2点台前半の数値でとても低いことが分かる。 また、教員側も「家庭学習の定着等、自ら進んで学習に取り組む生徒を育てる取組の強化」の項目が2.7点とまだまだ改善の余地があるとの認識を持っていることが分かる。 これらを踏まえ、学習カルテの利用をさらに軌道に乗せながら、引き続き授業の改善にも取り組んでいかなければならない。 ⑥部活動に熱心に取り組む生徒が多く、挨拶や礼儀の面と合わせて心身ともに成長する様子が見られた。活動時間を過ぎて下校することが度々あったので、各スポンサーの協力のもと時間厳守の意識を向上させていきたい。 | | |
| | ④分かる・できる・楽しい授業による基礎的・基本的な学力の習得と活用 ⑤教師の指導力向上を目指した授業改善に結びつく校内研修の充実 ⑥生徒の自主性と逞しい心身を育む部活動の推進 | A | A | | A | A |

<学校関係者評価委員による意見>

- ・家庭学習への取組と不登校生徒の指導、取組が最近数年の課題であるが、教師は努力している
- ・授業改善と家庭学習の習慣化は、取り組むべき大きな課題になっている。「まほうのかいわ」の意識の向上を図っていきたい
- ・家庭学習の創造をよりできる形へ実現しつつあると思う

| | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|
| 生徒指導 | <p>⑦学校生活の改善・向上に資する生徒会活動の充実</p> <p>⑧校内学びの支援委員会を活用した不登校生徒へのきめ細やかで組織的な対応</p> <p>⑨問題行動やいじめの未然防止と早期発見・早期対応</p> | A | A | <p>⑦生徒会行事や委員会活動に、積極的に参加できている生徒が多いようだ。あいさつについては、生徒の評価より保護者の評価が少し低い。しかし、保護者の方から、来校した際の生徒のあいさつが素晴らしいとの声もある。今後もより質の高いあいさつができるよう、あいさつ運動や日頃の指導を行っていく。</p> <p>⑧不登校生徒へのきめ細やかで組織的な対応についてはA評価となっており、学びの支援委員会や学年内での交流、対応協議を通して、担任だけで抱える、担任だけの判断で対応するということはほぼ無くなっている。ただし、不登校生徒の総数はここ数年多いままで、学校組織として1人1人きめ細やかな対応が十分にできているとは言えない。「新たな不登校を生まないように、特に初期対応を大切に、きめ細やかに対応する」ということを改めて職員全体で再確認しなければならない。</p> <p>⑨問題行動やいじめの未然防止と早期発見・早期対応については、生徒、教職員ともある程度の高い評価を得ており、毎学期に「悩みやいじめアンケート」を実施、その後の聞き取り調査、教育相談の実施、指導が成果を得ていると考えられる。特に担任の先生方が、1つ1つ丁寧に対応しているので、生徒も安心していじめやかからいについての相談を教師にできている。一方で、同項目における保護者の評価が低めになっている。学校で教師が様々な対応をしていることが把握されていないと考えられるので、より保護者との連携を密にとることを心がけていくようにしたい。</p> | A | A |
|------|---|---|---|---|---|---|

<学校関係者評価委員による意見>

- ・不登校、いじめ問題など職員の意識の共通理解が大切
- ・学校内や表面上は仲良くて、スマホ内でいじめられていることがある

| | | | | | | |
|-----------|--------------------------|---|---|---|---|---|
| 自己管理・教育環境 | ⑩働き方改革を進めた、より望ましい職場環境づくり | B | B | ⑩本校は、前向きに業務に取り組む教職員が非常に多いため単に業務の無駄をなくすだけでは、労働時間の削減にはならず、働き方改革という点では、教育効果を十分に検証した上での業務そのものの精選が必要である。 | A | A |
|-----------|--------------------------|---|---|---|---|---|

<学校関係者評価委員による意見>

- ・小学校では勤務時間だけでなく、休憩時間の確保など課題が多い。また、小中一貫に関わる取組も進めなければならず、小中協力していい形をつくっていききたい

| | | | | | | |
|--------|----------------------|---|---|---|---|---|
| 保護者・地域 | ⑪相互訪問等の異校種間の連携の一層の推進 | B | B | ⑪今年度、連携の方法を一部変更して実施中である。お互いの授業参観という形を取り入れながら、地域で子供たちを育てていくという姿勢を前面に出せればと考えている。取組の反省を検討しながら、より充実した連携を模索していきたい。 | A | A |
|--------|----------------------|---|---|---|---|---|

<学校関係者評価委員による意見>

- ・特になし

| | | | | | | |
|---------|-----------------------------|---|---|---|---|---|
| 危機管理・防災 | ⑫防災意識の高揚と非常時における速やかな避難体制の確立 | A | A | ⑫月初めに安全衛生の日を設定し、教職員への安全指導の再確認と啓発、緊急時を想定しての一斉メール配信システムの試験運転、施設設備の保守点検を毎月行った。 | A | A |
|---------|-----------------------------|---|---|---|---|---|

<学校関係者評価委員による意見>

- ・「ついたもん」が今、おおいに役立っている

4 学校評価における特記事項

- ・近年、学童保育卒所生の不登校が続いており、指導員一同心配しているが、卒所生保護者より、西中先生方に良くして頂いているとの話を聞き、心温まる思いである